

## 雑司が谷研究 16

—— 近接する公園の使い分けによる連携整備計画 ——

### Zoshigaya Study 16: Coordinated Management of Neighboring Parks Based on a Visitor Use Survey

住居学科 安本 萌恵 葉袋 奈美子  
Dept. of Housing and Architecture Yasumoto Moe Namiko MINAI

**抄 録** 本研究は、木造密集地域にある雑司が谷の7つの公園を研究対象として、周辺住民の「公園の使い分け」の視点から利用実態を調査し、近接する複数の公園を連携して再整備する方法を検討した。アンケートを行った結果、公園の設備条件の良さと利用率の高さが比例していないこと、「友達のいる公園に集まってから他の公園に連れ立って移動する」という話からも知り合いが集まる公園という条件が最も重要視されている選択理由であると考えた。これらの調査をもとに公園を「誘致する人の対象範囲」、「利用目的」の指標で分類し、具体的な整備方針を公園ごとに検討した。公園の目的や機能を分散させることで公園の個性が際立つことが明らかとなった。雑司が谷に限らず都心は小さい公園が多いからこそ機能を分散し、地域全体で公園のすべての機能を網羅する計画が適していると考察した。また、1つの公園にすべての機能を詰め込まなくても良いという展望が開けた。

**キーワード**：都市公園、使い分け、パークマネジメント、公園連携整備計画、公民連携

**Abstract** This study focused on seven parks located in a densely built wooden houses area in Zoshigaya, Tokyo. It surveyed the actual use of the parks and ascertained why visitors used the parks. The results showed that the quality of the park's facilities was not a major factor determining usage rates of the park. Children tend to gather at the largest park in the area, and then frequently move to other parks after meeting their friends. On the other hand, elderly people tend to visit parks with more friends. Therefore, the most important reason for specific park choice was revealed to be the presence of acquaintances. For future park planning, we organized seven neighboring parks by "target audience" and "intended use," and proposed specific development policies for the parks. The study considered that urban centers with many small parks would be better suited to a plan that decentralized functions and encompassed all park functions throughout the region. It also opened the prospect of not having to cram all functions into one park.

**Keywords:** urban park, park selection, park management, Coordinated Development Plan (CDP) of park, public-private partnership

### 1. 研究の背景と目的

現代において都市公園は住宅地の構成要素として当たり前となり、誘致距離などが定められ計画的に配置されている。都内では公園が近接しており、似たような公園が多く、十分に活用されていないもの

もある。公園の歴史を見ると現在の街区公園は、もとは子供が遊ぶための公園で「児童公園」と名付けられていた。児童公園には3種の神器といわれるブランコ・すべり台・砂場の3つの設置が義務付けられ、公園面積確保のため量的整備がされてきた。このような画一的な整備方針が似通った公園を形づ

くったと考えられる。その後、少子高齢化が進んだことから全世代が活用するという意味づけで、1993年6月に都市公園法施行令の一部が改正されて「児童公園」から「街区公園」と名称変更された。事故などの原因から子ども向けの遊具が撤去され、代わりに高齢者が使う健康遊具を設置するケースが増えている。さらに最近ではボール遊びや大声を出さないなどの禁止注意事項が増え、子どもたちが公園で遊びづらくなっているという指摘がされている<sup>4)</sup>。このようなことから、様々な年齢層、関心を持つ人がライフスタイルに合わせた使い方ができる多様な公園が展開されることで、住環境はより良くなるのではないかと考えられる。

2017年に都市公園法が改正され、量だけではなく質も重要視するようになった。近年ではPark-PFI制度を取り入れた新しい公園の事例が増えてきている。MIYASHITA PARKは、商業施設の屋上に公園があり、土地が少ない都心では画期的な新しい公園の形である。また、連携整備という方法もわずかだが事例としてみられ、足立区では公園の役割を「にぎわい」と「やすらぎ」の2つに分け、機能を振り分け、各公園のテーマを決めるという取り組みがなされている。港北ニュータウンのような大規模な面的開発が行われた場所では、公園が緑道で繋がっておりランニングコースにしたり、地区ごとにテーマを設けて整備されている。新しい形の公園は増えてきているが、導入事例は1つの大規模公園という事例が多い。私たちが一番よく使い、身近である中小規模の公園も各公園のイベント活用が多く、面的に整備している事例が少ないため、あまり変化を感じられない。さらに、今回研究対象とする雑司が谷は木造密集地域に指定されており、公園は防災対策だけでなく、庭など空地が少ない地域において貴重な資源であり、身近な中小規模の街区公園こそ十分に活用される必要がある。

よって本研究では、住民の生活行動の中で公園がどのように使い分けられているかを明らかにしたうえで、雑司が谷の公園をより地域にあった公園に整備するために、複数の公園をどのように連携して整備・計画すれば良いか検討することを目的とする。

## 2. 対象7公園の概要と観察調査における特徴

豊島区の公園は23区の中でも一人当たりの面積が最下位である。しかし公園の総数は中間であるこ

と、豊島区は国立・都立公園など大規模な公園がないということから、1つ1つの公園が小さいという特徴が挙げられる。公園間の距離・面積・高低差・周辺の環境・特徴を図1/表1にまとめた。街区公園の定義は誘致距離250m、標準面積0.25ha(2500㎡)であり、比較してみると雑司が谷公園以外は標準面積よりかなり小さい。置いてある遊具などは一般的な公園と変わらない。また雑司が谷地域は、坂道が多い地域である。



図1 雑司が谷と公園の地理的關係<sup>4)</sup>

表1 各公園の面積と特徴

| 公園名(略称)   | 面積㎡      | 特徴・概要                                |
|-----------|----------|--------------------------------------|
| 雑司が谷公園    | 8,653.75 | 芝生が広がる大きな公園。2階建ての施設がある。ボール広場。2020年開園 |
| みみずく公園    | 667.76   | 隣に鬼子母神がある。一般的な遊具                     |
| みどり公園     | 571.94   | 遊具なし。大きな石の基盤。近所に保育園があり、散歩に利用している。    |
| 南池袋第二公園   | 849.71   | 砂場・遊具・面積ともに充実している。道からはブロック塀が見えない。    |
| 雑司が谷一丁目公園 | 998.63   | 砂場・遊具・面積ともに充実している。日当たりが悪い。           |
| 中央児童遊園    | 396.70   | 対面に保育園・UFOの変った遊具が子供に人気。砂場もある。        |
| 四つ家児童遊園   | 392.84   | 目白通り沿いにあるが、遊具もほとんどなく暗い。              |

実際に対象の公園に赴き、図2のように公園の特徴を写真と配置図でまとめた。さらに、気づいたことや住民から聞いた使用上のトラブルや危険な点などの課題をコメントで書き込み、実際の写真とリンクさせることで整理した。観察調査だけではなく、標高や周辺施設の位置関係などを地図に落とし込み、可視化することで、地理的關係からの特徴を導き出した。対象公園から、南池袋みどり公園を例に1つあげる。図2は南池袋みどり公園の観察調査による

特徴と現状をまとめたものである。南池袋みどり公園は、遊具が一つもないが、近隣に保育園が2つあり、保育園の散歩コースになっている。しかし、石の地面や、整備されず生い茂っている植栽などの悪条件から、子どもを遊ばせるのには向いていないなどの課題が見えてきた。



図2 南池袋みどり公園の現状

(写真：筆者撮影，図面：ひろばくらぶ提供)

### 3. 雑司が谷住民の公園の使い分け方と利用状況

#### (1) よく利用する公園について

徒歩圏内に複数の公園がある状況で、住民が普段どのような理由や行動から公園を選択し、使い分けられているかを明らかにすることを目的とするアンケートを行った。研究対象の7つの公園すべての実態を把握するため、対象公園を巡回しながら利用者にアンケートとヒアリングを行った。アンケートは大人用(中学生以上)と子ども用(小学生)に分けた。小学生と中学生では公園の遊具で遊ぶ機会がなくなるなど使い方に境界線があると考え、2つに分け、それぞれの使い方を深く追求するための設問を用意した。よく利用する公園を3番目まで順番に回答しても

らった結果を図3に示す。2つ以上の公園を利用していると回答した子どもは90.62%，3つ以上は

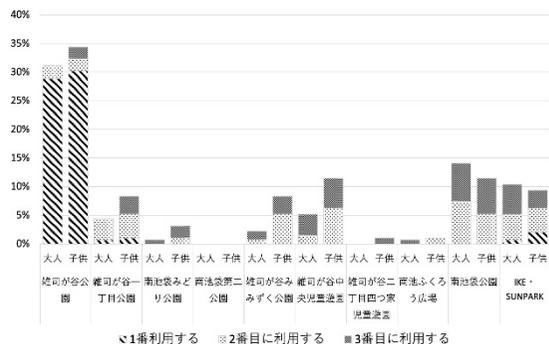


図3 よく利用する公園の比較

89.58%であった。一方大人は、2つ以上は68.89%，3つ以上は64.44%であった。回答の傾向から大人に比べて子どもの方が複数の公園を使い分ける傾向があることがわかる。雑司が谷公園は圧倒的に人気であるが、2位以降は子どもと大人で違いが出た。大人は南池袋公園・イケ・サンパークと大規模公園が2・3位と続いている。一方子どもは2位に396.70㎡と地域で2番目に小さな雑司が谷中央児童遊園が入っている。人気に優劣はあるものの、大人よりも票が分散しており比較的どの公園も利用していることが明らかになった。

#### (2) 回答と生活拠点との関係

##### ①公園を選択する理由

次に選んだ公園を選択する理由を聞いた。図4は大人の公園の選択理由を集計したものである。その中で「自宅から近いから」が理由として1番多かった。しかし、自宅を地図にプロットしてもら

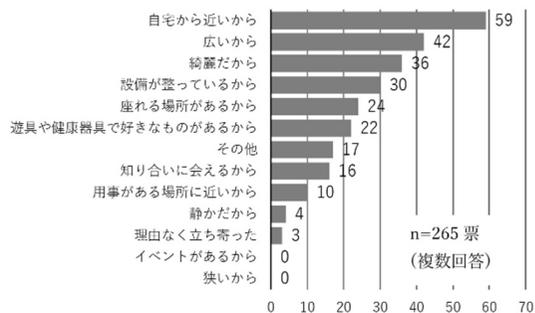


図4 公園を選択する理由 —アンケート1 (大人)

と本当の最寄りの公園は別にある人もいた。地図に自宅位置を記入してもらった人の内、64.2%が最寄り以外の公園を回答していた。単純に自宅からの距離で公園を選択しているわけではなく、他の要因が選択の理由の本質ではないかと考えられる。選択理由は、設備や綺麗さなどの条件を重視している傾向が見られた。

図5は子どもの公園の選択理由を集計したものである。大人と異なり、子供は「友達と会えるから」が2番目に多かった。詳しくヒアリングしたところ、「雑司が谷公園に行けば友達必ずいる」という声を聞き、人が集まる公園を利用し、人との関係によって公園を選んでいることがわかる。また、公園を移動して遊ぶかという問いに対し、「一度雑司が谷公園に集まってから、他の公園に連れ立って移動したりする」という声も聞いた。理由は混んでいたり、大人に怒られて気まづくなったりということも挙げていた。利用する児童が最も多い雑司が谷公園からの移動先として挙げられたもので多いのは、中央児童遊園（通称 UFO 公園）である。雑司が谷公園から近いこと、商店街に面する道で普段から利用する児童が多く、馴染みがあるという点にもその理由があろう。なおこの公園は、UFO の遊具があるから「UFO 公園」と別名称をつけて呼んでいる。

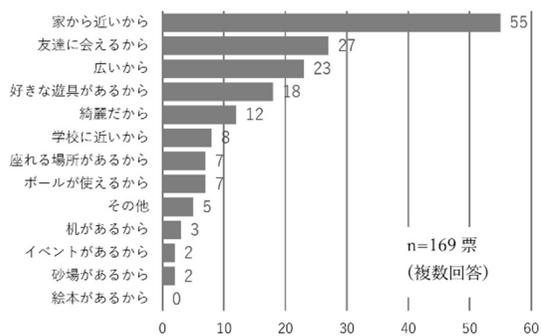


図5 公園を選択する理由 —アンケート2 (子ども)

## ②利用率が低い公園の理由

よく利用する公園の設問から、利用されていない公園が4つあることが明らかになった。南池袋みどり公園・雑司が谷二丁目四つ家児童遊園・南池袋ふくろうひろば・南池袋第二公園は他の公園に比べて利用率が低い。そのうち3つの公園には遊具が1つもない。豊島区内では、指定された公園等以外では

ボール遊びが禁止されているため、遊具の無い住宅地内の公園での遊び方は限定的とならざるを得ないことが、利用率の低さに表れていると考えられる。

南池袋第二公園は遊具も面積も充実しているのに人気がない。それに対し同じ遊具が揃う雑司が谷一丁目公園は利用がみられた。当時の小学校の通学路との関係を確認したところ、図6のとおり、一丁目公園は通学路の内側にあり住宅地の真ん中にあるが、二丁目公園は霊園と都電に囲まれ人の通りが少ないという違いがある。また住宅の数自体も線路の反対側と比較すると少ない。さらに南池袋第二公園は地形的に丘になっており、道路からはコンクリートの擁壁で公園の様子が見えないことも関係していると考えられる。また、学校からも遠く、学区の端で、雑司ヶ谷霊園付近は住民の往来が少ないと考えられる。このことから、人通りの少なさから認知度が低いと考えられる。認知度の低さと、公園を選択する理由である「知人がいる公園」に行くということが相まって、利用されていないと考えられる。このように人通りが少ないことで公園の環境が良くても使われない公園があることがわかる。



図6 通学路の関係から見る、使用頻度の低い公園の要因<sup>4)</sup>

## (3) まとめ

アンケートから、公園は大人・子供ともに使い分けられていることが明らかになった。特に子供は公園の規模を気にせず、地域全体の公園を使い分けられていることがわかった。公園を選ぶ理由として「自宅から近い」という回答が多かったが、他にも近い公園があ

るケースが多く、本質的な要因は他にあると考えられる。他の理由を調査するために利用率の低い公園の理由を考察した。利用率の低い公園には環境が整っている公園も入っていたため、設備条件以外に理由があると考えられる。立地の関係から人通りが少なく認知度も低いことが利用率の低さに関係していると考えた。ヒアリングから「雑司が谷公園に行けば誰か友達や知り合いがいる」「雑司が谷公園で集合して、他の公園にみんなで連れ立って移動する」という声があった。このことから、公園を選ぶ際は公園の環境や設備よりも人との関係などその時の状況で選んでいると考えられる。公園の設備条件の良さと利用率の高さは比例していないことから、知り合いが集まる公園という条件が最も重要視されている選択理由であると考えた。

#### 4. 雑司が谷地域での公園の連携的な整備方針の検討

##### (1) 公園の分類指標の設定

##### ①誘致する人の範囲による分類

使い分けの調査やヒアリングから2つの指標を独自で設定し、公園を分類し、各公園の整備方針を検討した。1つ目は誘致する人の対象範囲による分類である。雑司が谷は住宅地でありながらも、鬼子母神があるなど来街者も多い地域であることから、分類が必要だと考えた。図7のように縦軸を誘致する対象範囲の広さにし、広い方から「観光等幅広く」、「来街者と住民」、それ以外は「住民のみ」に分類した。例えば、雑司が谷みみずく公園は一般的な公園だが、鬼子母神の目の前にあり、参拝者がトイレを利用することが多いため来街者と住民に分類した。住宅地であり来街者は好ま

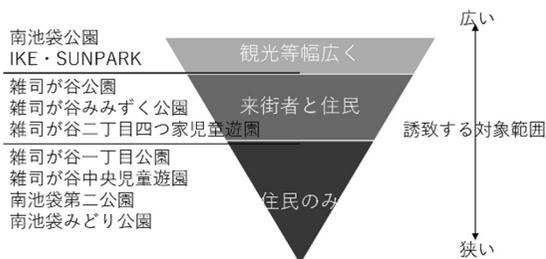
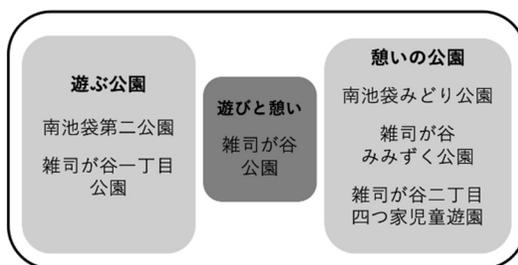


図7 誘致する来園者の範囲による公園の分類

れないため、分類することにより住環境やプライバシーの確保につながる。

##### ②目的別分類と役割の設定

2つ目は利用目的による分類である。現在の公園の目的として、街区公園になる前の児童公園の「遊び」の役割とさまざまな年代を考慮した「憩い」の場としての役割があると考えた。図8は2つの目的に公園を分類した図である。雑司が谷の公園は面積が小さく、すべての遊具を揃えることは難しい。遊具が充実している公園は「遊び」、整備が難しい小さな公園は「憩い」に分類した。図8では公園の主たる目的を持たせつつも、2つの役割の公園を合わせて地域で公園に求められるすべての役割を網羅できることを表現している。



複数の公園ですべての役割を網羅

図8 公園の目的別分類

##### (2) 各公園の具体的な整備方針

より具体的な整備方針を公園ごとに検討し、表2のように現状、誘致範囲、目的、提案の項目で公園ごとにまとめた。表2は一例の南池袋みどり公園である。この公園には遊具はないが、緑が豊かで鬼子母神に馴染みのあるザクロの木があることが特徴である。ザクロの収穫祭を行った際に、高齢者が子ども

表2 南池袋みどり公園の整備提案

|    | 特徴   | 問題点  |
|----|--|--|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> <li>緑が豊か</li> <li>ざくろの木がある</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>遊具がない</li> <li>大きな石の素材の地面</li> <li>遊ぶのには適さない</li> </ul> |
| 誘致 | 住民のみ   |  |
| 目的 | 憩い   |  |
| 提案 | 「住民で育てるエディブルパーク」<br>実がなる植物を植え、収穫や栽培を通して交流の場・知識の伝承の場とする。                  |  |

もにザクロの歴史を教えるなどの交流が見られた。このことを活かし、「住民で育てるエディブルパーク」を提案する。エディブルパークは公園で植物を育て、収穫ができる公園で、南池袋みどり公園にも他にも実がなる植物を植え、収穫や栽培を通し住民の交流の場・知識の伝承の場とする。このような整理と提案を公園ごとに行った。

これらの分類と提案を図9のように地図に落とし込んだ。目的別分類は公園にパターンでつけ、来園者の対象範囲は吹き出しに記載してある。吹き出しには具体的な提案のテーマも記載してある。図9を見るとパターンが偏っていないことから、公園の役割や機能が分散していることがわかる。設備面で改善の余地がない公園でも、空間の活用方法を工夫して他の公園との違いをつけることができる。近接する公園を整備する際は1つ特化した役割を持たせることで1つ1つの公園の個性が際立つことがわかった。こうすることで、似たような公園がなくなり地域全体の公園が活用されていくと考える。また、従来のように1つの公園にすべての機能を詰め込まなくても良いという展望が開けた。都心では公園が近接しているため、徒歩数分で移動することができる。子どもが公園間を移動していたことから、複数の公園を利用する方法は普及する可能性がある。雑司

が谷のように公園が小さく、近接している都心では用途や機能を分散させる整備計画が適しているということが明らかになった。

## 5. おわりに

どの住宅地にも数多くの公園が整備されているが、広さ、設置物は多様である。都市計画では街区公園、近隣公園といった具合に広さや誘致圏で分類する考え方はあるものの、実際のまちの中にある公園については街区公園に相当するものでも住民による使い分けが行われていることがわかった。特に高齢者と児童とでは、使う場所の傾向が異なり、それは住居の位置よりも生活動線による影響が大きいことも確かめられた。またこういった利用状況を踏まえ、利用者層と利用目的の2つの指標を使うことで、地域内での公園使い分けの可能性を示すことができた。

2020年から特定非営利活動法人 雑司が谷ひろばくらぶ(以下ひろばくらぶ)が今回研究対象とした7つの公園と1つのまちづくり用地を豊島区と協働で一括整備・管理している。1つ取り組みの例として、豊島区職員との現場視察をあげる。図10はその様子である。活動を始める前段階として、職員とひろばくらぶメンバーと一緒に対象公園を周り、問題共有を行った。この遊具で子どもが怪我をしたり、木

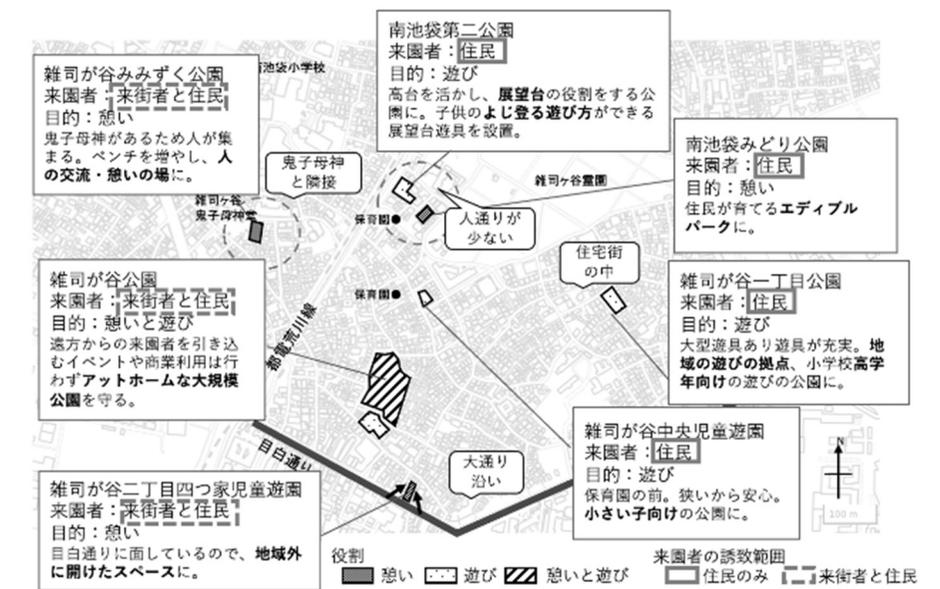


図9 7つの公園の整備方針の検討<sup>4)</sup>

を勝手に伐採している人がいるなど、住民間での世間話などから得た課題や、最近起きている事件を区の職員と共有した。これをもとに、植栽の剪定や清掃など住民だけでできることから動いている。2021年は花壇づくり、雑草抜き、ざくろ収穫祭やプレーパークなどのイベントを行った。地域に根差したNPOによる、統括的な管理の取り組みが進むことで、本稿で示したような使い分け等が、実現し、限りある町の資源である公園が、多様な地域内での居住スタイルを受け止める公共空間として機能を高めていくことができるであろう。



図10 豊島区との問題点共有の様子  
(2021年5月13日撮影)

### 【参考文献】

- 1) 読売新聞オンライン,公園も大声禁止,遊び場を追われる子供たち(2017.7.8 10:00 記事)  
<<https://www.yomiuri.co.jp/fukayomi/20170706-OYT8T50017/>>
- 2) 横浜市,都筑の美しい緑道と公園をめぐる健康づくりコースマップ(参照 2021.12.23)  
<[https://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/kurashi/machizukuri\\_kankyo/jimusho/gesuido/ryokudo-sign.html](https://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/kurashi/machizukuri_kankyo/jimusho/gesuido/ryokudo-sign.html)>
- 3) 足立区,足立区パークイノベーション推進計画(参照 2018.4)  
<[https://www.city.adachi.tokyo.jp/documents/25086/parkinnovationsuishinkeikaku\\_1.pdf](https://www.city.adachi.tokyo.jp/documents/25086/parkinnovationsuishinkeikaku_1.pdf)>
- 4) 地理院地図 Vector から自分で作成(参照 2022.1.5)  
<<https://maps.gsi.go.jp/vector/#4/36.102376/140.075684/&ls=vstd&disp=1&d=1>>
- 5) 豊島区 HP(参照 2021.12.23)  
<<https://www.city.toshima.lg.jp/index.html>>

